兵庫きのこ研究会 修法が原定点観察会2019.7.21
(1/3ページ 感想)

なんという蒸し蒸しの暑さ、、、少し歩いただけで
汗だくです、、、
今回は久し振りの参加で、たくさん雨が降ったし今回は
行けるでしょうと期待して臨みました。そうは思えないけど
1年ぶりの登場W君、御影OBなどなど若手の登場で
ぐっと平均年齢の若くなった7月でした。結果、驚くほど
ではなかったですがテーブル二つがいっぱいに。
よくあるやつだと邪険に扱ったツエタケが珍しいシロツエタケだと言われてガーンとなったり、期待していたテングタケ属があまり見つからず、ただ以外にもテングタケダマシはたくさん生えていたり、去年初観察だったアナアキアカダマタケを見つける事が出来たり、楽しい散策でした。ほかにもいろいろレア種が見つかったようです。大龍寺のだいぶ下まで行って歩いて戻ると12時はとっくに回っていて既に同定台にたくさんキノコが並んでいました。
いやあ、よく歩いた!

Sさんへ捧げる恒例
サンコタケ
パフォーマンス!

鉄板のIさんの
可食のきのこの解説

崖の上までさあ!

ニカワラッシタケの
プニプニを伝授

ニホンマムシ

ヌルデタケ

コウモリタケ

ニカワラッシタケ

ヒナツチガキ

ムラサキカスリタケ

アイタケ

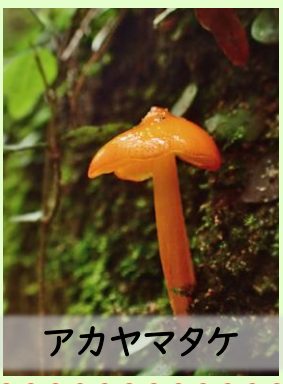
カンゾウタケ

ヒロハチチチタケ

ツノフノリタケ

リュウコクヒナベニタケ(小寺仮)

キイボカサタケ


アカヤマタケ

シロツルタケ

アカダマタケ　*Melanogaster utriculatus Y. Wang, Castellano & Trappe*
同定／折原貴道博士（神奈川県立生命の星・地球博物館）　文／和田（匠）

現地ではアナアキアカダマタケ（佐々木仮称）？として同定された。表面にくぼみを持つゴム状の子実体を形成している点は、アナアキアカダマタケ*Melanogaster sp.* に共通していたため、神奈川県立生命の星・地球博物館の折原博士に送付したところ、アカダマタケ*Melanogaster utriculatus*と同定された。本種は、不定形の透明な物質に覆われる卵形の担子胞子を形成することが特徴である。また、アナアキアカダマタケや、本会でヒヨドリノアカダマタケ（山上仮称）と同定されている、メラノガステル属未記載種などは本種に肉眼的に酷似しているが、これらは胞子が平滑なため容易に区別できる。
また、アカダマタケには国内のほとんどの図鑑で*M. intermedius*の学名が充てられていたが、アカダマタケの学名として*M. utriculatus*を採用する提案がなされた。

＜引用文献＞
大前宗之, 山本航平, 折原貴道. 2018. アカダマタケ （*Melanogaster utriculatus*） の分類学的扱いの変遷について. Truffology 1 (1): 28–30 (2018).
佐々木廣海, 木下晃彦, 奈良一秀. 地下生菌識別図鑑. 誠文堂新光社.